

平成 24 年度 第 2 回大阪府立泉北高等学校学校協議会

1 日時：平成 25 年 3 月 12 日（火） 15：30～17：00

2 場所：大阪府立泉北高等学校 会議室

3 出席者 〈委員〉

伊藤 智博氏（大阪府立大学 教授）、奥井 博之氏（堺市立若松台中学校 校長）、中村 俊一氏（立志館ゼミナール 館長）、塩田 和子氏（泉北高等学校後援会 会長）、亀丸 康代氏（泉北高等学校 PTA 会長）

4 挨拶 校長

- ・今年度は第 2 回の協議会で 1 年間の報告をさせていただき、委員の皆様からご質問及びご意見を頂戴したい。また、合わせて平成 25 年度の経営計画案についてもご意見いただきたい。
- ・SSH の取組においても成果が上がり、全国的な発表で本校の課題研究 3 組が表彰された。これまでの取り組みに加えて、3 年間の特別枠の認定もいただけた。
- ・イングリッシュ・フロンティア・ハイスクール事業（英語力を上げる取組）で、英検、TOEIC、TOEFL においても徐々に成果を上げている。来年度はこの事業を発展させる新たな取り組みを計画する予定。
- ・入試改変で、全府立高校が前期入試を行い、本校の倍率は若干下がりましたが、受験生の傾向は大きく変化はなかった。来年度は学区がなくなり、さらに入試も変化が見込まれることとなり、ますますご意見をいただいて学校の発展のためにご指導をお願いしたい。

5 臨時議長の選出

会長の加藤 正彦 氏が所用でご欠席のため、伊藤 智博 氏を議長として臨時に選出。

6 本年度の学校経営目標とその取組について

① 平成 24 年度府立泉北高等学校学校評価報告書について （教頭より）

② 平成 24 年度学校経営計画及び学校評価について （教頭より）

- ・学校教育自己診断結果を分析したところ、在校生、保護者、教職員のほとんどの項目で向上している。特に、特色のある教育活動、特別活動、進路指導、広報活動について評価が非常に高かった。課題としては、学習指導に顕著な向上が見られなかったため、来年度は授業力改善を含めた取組を強化したい。また、保健防災活動については評価が下がっているため、向上できるように努力していきたい。

③ 学校評価アンケート結果について

1) 保護者アンケート結果について （国際総務部）

- ・「子どもは家庭学習に積極的に取り組んでいる」という項目について昨年度低い評価であったため、各教科教員が一丸となって取り組んだ結果、評価が高まった。また「学校のインターネット

トホームページをよく利用している」、「学校のメールマガジンを周知している」、「PTA 新聞（かなえ）はよく読んでいます」等学校広報活動における評価は、かなりの伸びを示していた。

- ・「地震や台風などの対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」、「学校の施設・設備・学習環境は、ほぼ満足できる」、「学校は、自己の防止に配慮している」という安全保健についてはマイナスの評価をいただき、学校の安全への配慮が十分に伝わるよう取り組みたい。
- ・「家庭で子どもが、ゲーム、インターネット、携帯等に使う時間（1日）」では1～2時間という回答が最も多く、クラブ活動と学習の両立に障害となるので、来年度指導に取り組みたい。

2) 生徒アンケート結果について（生徒指導部）

- ・全学年において学校の特色である部活動を積極的に取り組んでいるという項目の評価が非常に高く、また2年生では海外修学旅行を行っていることもあり、異文化理解・国際交流について学習する機会が多いという項目で評価が非常に高く、本校の特色に高い評価が得られたと考えられる。

3) 教職員アンケート結果について（進路指導部）

- ・教科指導について80%以上が肯定的な意見を持っているのに対して、生徒の家庭学習については60%以上の教職員が否定的な意見があり、昨年度から検討してきたが改善が見られなかったことから、来年度も取り組みを強化する。
- ・人権についての取り組みに関して、全教員が統一した見解を持って指導に当たっているかということについては良い結果がみられなかったので、対応していきたい。
- ・進路指導では、「大学・専門学校などとの交流の機会を積極的に設けている」という項目で非常に評価が高かった。
- ・校務に関して、ほぼ90%の教職員が現在の日々の仕事及び環境に関して肯定的にとらえている。
- ・学校経営には本校の特色を生かした学校運営ができていると高く評価された。

④授業アンケート結果について（教務部）

- ・全教職員に対する授業のアンケートを実施し、教科ごとにアンケートを集計して分析し、各項目の肯定的解答の比較割合を見た。「その授業に対して、あなたは家庭で、予習・復習・課題などをきちんとしていますか」という項目で、肯定的な解答の割合が高い。今年度は3回のアンケート結果を比較してみると、12月の評価に比べて授業に対する意欲や関心が各教科10%ほど上がっていた。今後の課題としては、昨年度からの課題でもあるが、予習・復習の習慣について向上させることである。国際文化科の英語は70%以上でかなり高いが、それ以外の科目では半数以上が「していない」「あまりしていない」と解答し予習復習の習慣の定着がうまくいっていないことが表れている。保護者のアンケートでは予習・復習についてかなり評価していただいているが、生徒や教職員の評価は大変低い結果となっている。

⑤各分掌等の取り組みについて

1) 教務部

今年の1年生では理科と数学では新教育課程で実施。来年度からはすべての教科で新教育課程に移行するため、教育課程表の改定を行った。新教育課程において、国公立進学がめざせるように新し

い入試に沿ったものにするように留意した。これまで懸案であった家庭学習について、全教員でのグループディスカッションも実施したところ学習時間とクラブ及び学習時間とアルバイトの関係が指摘され、家庭学習とクラブ活動及び家庭学習とアルバイトの実態調査を生徒対象に行った。今後分析し、来年度に向けて家庭学習時間を増やす具体的な方策を考えていきたい。

2) 生徒指導部

生徒の身だしなみや礼儀を中心に指導を行った。また、交通安全について、特に自転車の通学マナーが悪いと一般的にいられている。来年度は自転車の交通マナーの向上指導に努めたい。また、携帯電話やスマートフォンによるマナーやトラブルの指導も課題である。

3) 進路指導部

進路行事の連絡のため、各学年で進路だよりを発行した。また、看護や薬剤師体験等の職業体験、外部模試の実施、希望講習の企画運営も行ってきたが、来年度も引き続き取り組みたい。外部模試の事前事後指導がまだ確立でききされていないので、来年度に取り組みたい。

4) 保健部

警備防災、疾病予防、清掃に関する指導を行った。すでに校内で作成している警備防災マニュアルについては、来年度生徒や保護者に発信して徹底を図りたい。

5) 国際総務部

80%以上の委員のみなさんに学級委員会に参加していただいた。PTA 活動は大変活発で、校内の美化活動、合唱コンクールへの参加、ヨガ教室などを行った。国際交流では、長期留学生在が年々減少する傾向にあるので、校内での説明会を復活させて多くの生徒が海外に目が向くようにしていきたい。

6) 図書情報部

図書館の活性化を第一目標としてきたが、図書だよりの発行ができなかったことは反省点であった。来年度は図書館の活性化を具体化するために、生徒の図書委員会の活発化を図っていきたい。また、学校全体に関わるが、図書館として自習環境の整備や教科と図書館との連携や図書だよりも掲示物だけではなくホームページや月泉（月刊学校新聞）の紙面などのメディアを通して発信していきたい。図書館の整備という点からも、分掌の体制を整えて図書館の利用規定も見直していきたい。

7) 広報部

広報チームで話し合ったことを基にして、今年度は学校新聞（月泉）を発行し、冷蔵庫に貼っていただいで学校の情報を確認していただけるようにした。ホームページは年間100回程度更新してきたが、府教委の容量が小さいことに苦慮した。学校のガイドブックは3500部作成し配布することができたが、来年度は外注も含めて充実させていきたい。行事の主催者が写真と記事を作成し、広報部がホームページに掲載するという流れを作りたい。広報活動を通じて、入学する前に本校の特徴をよく理解していただいで入学していただけるよう行ってきたが、さらに開催を周知徹底させてより多くの参加者を得て充実した学校説明会を来年度も提供していきたい。

8) 第1学年

学力保障と進路指導の充実、規律のある学校生活を課題にしてきた。家庭との連携をとりながら生徒の学習成果を高めていく、学年懇談会を新たに開催した。その結果、生徒たちは学習とクラブ活動の両立によく取り組むことができた。来年度は、自ら行動できる生徒、学年をまとめるリーダー

の育成に努めていきたい。また、スタディーツアーが成功できるように努力したい。

9) 第2学年

学力の保障と達成感を得られることを課題にしてきた。学力保障のために、毎週単語コンテストを行い表彰するといった学習動機を高める取組を行ったり、講習の実施や総合科学科でセンター利用を考えている生徒対象の社会科ガイダンスを行った。また、模擬試験の復習の仕方講習も行った。取り組みの成果があり、外部模試への参加者が年度末に向けて増加してきているので、このまま進路保障に向けて指導していきたい。来年度は、遅刻を減少させ学校中心の生活になるように指導していきたい。

10) 第3学年

学力の保障、生活指導、学校行事の達成感などを目標に指導してきた。生徒たちのリーダーシップなどにより充実した行事を行うことができた。3年になる春休みから講習を実施し、学力の保障に当たった。127名がセンター試験を受験した。国際文化は9割、総合科学科は7割が進路実現することができた。

11) 総合科学科

両科あげて特筆すべき事項は、延べ10回以上の国際交流を行ってきたことである。台湾やシンガポールなどから本校を訪れ、授業で交流が行われたことは生徒にとっても教員にとっても有益であった。

12) 国際文化科

第2外国語の学習を通じて、英語学習にもよい影響を与えているように思われる。海外留学生の受け入れや海外帰国生たちをクラスに受け入れて、異文化を体験しながら共に学ぶ良い経験ができていく。

13) SSH

第2期指定の初年度で、あらたな取り組みで成果が見られた。7年目ということで課題研究では内容も良い研究ができ、中間発表会ではプレゼンテーション能力に大いに評価が得られた、また、3年生が全国SSH発表会で受賞し、日本植物学会で優秀賞、大阪府立大学で行われた大阪セミナーの高校生プレゼンでも最優秀賞、日本生態学会でナチュラルリスト賞をいただいて高い評価が得られた。海外研修の充実をめざして、オーストラリアに加えて台湾の3校を訪問し、英語でプレゼンテーションを初めて行うことができた。本年度から、重点枠にも指定され、大阪府立大学、小中との連携や海外研修及び国際的な研究発表などを趣旨としており、3年間充実した取り組みができる見通しとなった。

14) EFHS

昨年度と大きく変更した点は、学校選択科目「Global English Training (GET)」を受講した生徒は全員がTOEIC IP又はTOEFL ITPを受験したことだった。生徒は近い将来こういった資格試験を受験するので、それに早くから取り組めたことはよかった。また、来年度からはMotto GETの授業内容をTOEFL ITPからTOEFL iBTに移行し、ネイティブの外部講師に担当していただく予定だ。来る3月16日(土)には予定通り泉北ミニ模擬国連を開催し、20名の生徒が各国の代表となって「核軍縮」について話し合う予定だ。そして、3月21日(木)、22日(金)には13名が参加するマリスタ・ブラザーズ・インターナショナル・スクールとの交流を含んだ春季イングリッシュキャン

プを行う。来年度からは「科学英語基礎」が開講され、理科と協力して充実した内容にして、課題研究の発表を英語で行えるような生徒の育成をめざしていきたい。EFHS で培ったノウハウを生かして、SSH 重点校の海外研修や国際的な研究発表にも協力していきたい。

7 協議

(委員) 理科の授業ではお世話になり感謝している。本校と共通した課題は家庭学習で、昨年と比べてパーセンテージが上がった具体的な取り組みについて教えてほしい。

→ (学校) 教員としては増えているという認識はあまりないと思っている。課題をたくさん与えることや予習復習を課すなどもしているが、生徒の家庭学習に関する概念が分からないので、もう少し細かく分析する必要がある。組織的に取り組むことができているので、十分検討して取り組んでいきたい。

→ (学校) 家庭学習を増やすことについて全教員でグループセッションを行った。教員が問題意識を共有することがよい影響を与えたかもしれない。

(委員) 中学生にとって興味関心を引くものがたくさんあり、興味関心が学習から他へも広がっていった。中学校でも困っている。各教科に分かれたら、強制的ではなく自主的にさせる方法を見出すことが大変だと思う。

→ (学校) 課題はやってくるが、休み時間などで要領よくやってくることもある。その一方で、意欲であるとか理解度は上がっているの、生徒たちは授業には前向きに取り組んでいるいい面がある。トータルで考えるとよい傾向があると見られるので、どういう内容を家庭で学習させるかが課題。

(委員) 中学校では不登校が多く、生徒指導で悩んでいる。生徒指導のアンケートで「クラスやクラブ等の学校内の人間関係がしんどい」については「しんどくない」ということですか？高校なので、希望してきているからということか？

→ (学校) アンケートの結果からは「しんどくない」と考えているようだ。

(委員) 普通科と違って、各科の特色がよく活かされて運営されている。特に、理系の英語を使って国際的に学習していくことについてはすばらしい取り組みだと思う。教職員が団結しながら学校運営されていると感じる。管理職として学校運営の問題点はなんでしょうか？

→ (学校) 本校の特色が中学生のみなさんに対してどのように受け止められているかが気付きである。普通科的なものであるというスタンスがいいのか、より特色を大きく打ち出す方がいいのか教えていただきたい。

(委員) 普通科総合学科と専門の総合学科の違いがよくわからない。一つは学校のブランドで決定しているところもあるのではないかと思う。運が良ければ通りたいという気持ちでほとんどの中学生が前期を受験し、泉陽もたくさん受けたがうまくいかず、後期も難しい。後期があつてどれくらいの戻りがあるかはわからないが、東大谷は 800 名で 20 クラスと聞いている。泉北高校の子供たちが来て泉北で学んでどのように変わっているか知りたい。先日、本校のバスケットボール部出身生徒にあったが、その表情は変わらないように見えたが、どうなのか？

(委員) 英語が特に学びたい気持ちは強かった。Native の先生の授業を受けることによって、外国人に対するハードルが下がり、コミュニケーション能力がかなり上がった。しかし、国公立

を考えると学校の授業だけでは難しいと気付くと他の手段を考えなければならないとわかった。結果として私立の大学に進学したが、国公立の大学に進学を考えるならば普通科総合学科の方がのぞましいのではないか。子供自身は、英語の授業レベルは大変高く、自分の英語力は上がったと思うと言っていた。

(委員) 数学が得意だったが、これからは英語が必要だということで英会話にも幼いころから通っていたこともあって、国際文化科に進んだ。しかし、泉北高校に入学するとレベルが高く授業についていくことが難しかった。しかし、2年生の短期留学を通じて、大学に入学したら留学したいというように意識が変わっていった。

(委員) センター入試を考えると、社会や理科の問題が出てくるので、文系を選択する生徒に対しては、それに対するフォローアップが必要になってくる。理系の方が有利になってくる。そのあたりのところが入学する前には分からない。

(委員) 目標が決まった時点でわかると遅い。中学校の時点でわかるとありがたい。

(委員) 中学校で進路指導をしていると、生徒はいろいろな学校を見に行きたいと思っている生徒がいることに気づく。できるだけ学校説明会の日を分けていただきたい。そういう調整はないのか？
→ (学校) あまりないです。

(委員) 結局偏差値で受験する学校を決めるため、ブランドで決めてしまうところがある。そうして入学してくると、目標があって入ってくればいいが、普通科と勘違いして入ってくる生徒は「あれ」となってしまふことがある。かといって説明会でうちは国公立難しいですよといいいくいでしょう。そうであれば、うちはこういうフォローアップがあると言えればいいのでは。

(学校) 和歌山大学と関西大学だと関西大学の方がはるかに難しい。それでもやはり和歌山大学の方がよいと見なされるのでしょうか？

(委員) 和歌山大学は観光学科があり、国立の大学もかつてと違って、いろいろ新しい取組をやっているが、私達も知らないことが多い。中学校の段階でももっと先を見通した進路指導をする努力が必要だ。

(委員) 大学をめざそうとしている学校が、3科目受験というのが問題ではないか。国公立は5科目なのに。

(委員) 社会に出ると考えると地方の国公立より、関西圏の有名私大の方が有利なようだ。何がいいのかというのは個人差がある。将来的には関関同立に行った方が有利では。

(委員) そういうことを伝える必要がある。高校受験では私立を滑り止めに受けて、公立を受ける。保護者にとっては、大学受験も同じものだという感覚があるのだと思う。しかし、国公立の数がすごく少ないので、高校受験とは大きく違うということをご存じない保護者が多くおられるのかもしれない。就職率は桃山大学でも就職率は高い。大学は就職率が高い所に人気が集まる。

(委員) 宿題について。塾は授業を売る商売で、消費者に対するサービスだが、学校はクライアントで医者と患者の関係だ。「授業は分かりやすいといっている(保護者58%)」と「授業がついていけず苦痛だ(生徒43.5%)」の結果が気になる。塾でも授業がよくない先生の宿題はやってこない。例えば、難しい授業をされてたくさん宿題を出されても、聞いていてもわからないから宿題ができない。分かる授業だと宿題を出されても分かり、宿題もやってくれる。あるいは、モチベーションが上がる宿題のさせ方。小テストをやるから宿題をさせるなど、授業と宿

題をどのように連動させてできるかが重要。宿題がどういう風に授業で生きてくるか生徒が分かる工夫が大切だ。宿題をやってこないのは、生徒だけの問題ではないと思う。同じ宿題を出してもやってこないクラスがあれば、それは教師の力であると思う。

(委員) 教える側も工夫が必要ということで大学でも授業アンケートで善し悪しが分かり次の授業に生かせるようにしています。以上で、協議会を終わりたい。

【協議会まとめと提言】

家庭学習の量をいかに増やすか。高校の方でも苦勞してやっているが、教員の意識改革を行って努力していこうとしている。大学でも悩んでおり、なかなかいい対策が見つからない。大学でも、毎回の簡単な小テストを実施している。また、普通科と総合科は何を目的とし、どう違うのかという説明はきちんとした方がよい。努力はしていると思うが、中学校ともタイアップして行う必要があるが、受験との兼ね合いを考えると難しくなってくる。

8 校長挨拶

前の説明がまた少し長くなり、申し訳ありませんでした。高校は中学と大学の間であり、中学にも大学にも周知できるようにしていきたい。学校説明会の日程については、同じような曜日設定になりがちであるが、本校では回数を増加させることで対応していきたい。また、中学校への教員や生徒の母校訪問も取り入れていきたい。今年度は堺市南区と和泉市が大きく減少したことについてまだ分析できていないのだが、来年度早々に対応できるようにしていきたい。地元によく理解していただいてたくさんの生徒に来ていただけるような学校にしていきたい。ありがとうございました。